



インド・ゴカック プロジェクト活動報告

(2007年3月)

貴連合より頂きましたご寄付により、コラビ村で建設していた寺子屋が、この度完成致しました。新しく綺麗な寺子屋に、村の人たちも大喜びです。今日も村の子供たちや、女性たちが元気に寺子屋に通っています。

<コラビ村の寺子屋>



夜間識字教室

寺子屋では、村の子供たちのための夜間の識字教室が開催されています。開始当初は、貧困のため、学校に行けない子供たちが多かったクラスですが、公立学校で無料の給食制度が始まったため、多くの子供たちが学校に戻りました。しかし、授業についていけない子供たちや、ドロップアウトしてしまう子供たちが後を絶たず、寺子屋では、現在そうした子供たちを中心に夜間の識字教室を続けています。また、家事や農作業の手伝いのために、学校に行けない子供たちも依然おり、約30名の子供たちが夜7時から9時まで、寺子屋で元気に勉強しています。



セルフヘルプグループ

寺子屋では、女性たちによるセルフヘルプグループ（自助グループ）がいくつも結成されました。10名程の女性たちが、週に10ルピー（約30円）をグループで貯蓄し、病気やいざというときに、貯蓄したお金からお金を借ります。若干の利子がつきますが、銀行よりも格段に安く借りることが出来ます。また、週一回、グループの会合を開き家庭や村の様々な問題を話しあい、お互いに助け合います。セルフヘルプグループの活発な活動は、政府や銀行からも注目され、現在では、銀行からも小口融資を受けられることとなりました。銀行から10,000ルピーの融資を受けたある女性は、そのお金で、水牛を一頭買いかいました。1日4リットルのミルクが取れ、半分を市場に売って

約 30 ルピーの収入を得ます。セルフヘルプグループは、こうした貯蓄や収入向上だけでなく、女性の地位向上に大きな役割を果たしています。グループの女性たちには、まだインドに根強く残るカースト制度の中で、いわれの無い差別を受けてきた女性たちも多く、グループに積極的に参加することで、家族や地域の中で、発言力が増し、尊敬を受けるようにもなったとのこと。



識字キャンプ

セルフヘルプグループに参加する女性の多くは、学校に行く機会が無く、字の読み書きが出来ません。貯蓄や小口融資に際しては、帳簿を確認する必要があり、女性たちも簡単な読み書きを学びたいとの要望がありました。寺子屋では、18 日間の識字の集中講座を開催し、女性たちが、生活に必要な基礎識字を学

びました。以前は帳簿に拇印でサインしていた女性たちも、今では、堂々と自分の名前を記入しています。



<今後の予定>

インド・ゴカックプロジェクトは 2007 年 3 月に 5 カ年事業を終了することとなりました。45 村で識字教室や収入向上などの様々なプログラムが実施され、そのうち 32 村で寺子屋が建設されました。しかし、それぞれの寺子屋がさらに活発に活動し、そして自立的に存続していくためには、まだサポートが必要です。現在、寺子屋が村の子供たちや、女性たちだけではなく、村のより多くの人たちに親しまれ、村の生活をより良くするための事業を検討中です。